

R3健康医療推進分科会 委員意見

項目	意見内容	回答
1	【資料2:P14:基本目標2:①歯と口の健康】 若い世代の意識調査において、大学生については、昼休みの歯磨き習慣が極めて低いこと、間食の回数の多さ(特に女子)が特に目立っている現状。正しい歯磨きの仕方、齲歯になりやすい食べものや、食べ方についての啓発活動を積極的に実施してほしい。また、歯磨きタイムが意識的に取れる工夫(小学校や中学校の給食後)も重要で、食後の歯磨きの習慣化を推進してほしい。	昼食後の歯磨きが不十分で、う蝕が増加傾向にある学年(12歳)より前の4年生を対象とし、歯磨き習慣の徹底とデンタルフロスの併用を習慣づけるよう、引き続き、周知及び啓発に努めます。
2	【資料1:P4:(2)データヘルス計画】 健康保険の健診結果やレセプトデータを活用するとなっているが、指標の作成や集計結果を示してほしい。	第3章で計画の目的と目標を、第4章で各保健事業の実施内容を示しています。また、令和2年度には、医療費及び個別保健事業についての中間評価を行っています。
3	【資料2:P6:基本目標1】食育推進ネットワーク、自殺対策ネットワーク、健康づくりネットワーク、総合健康相談等を行うにあたり、ZOOMなどを利用したWeb会議で行うのはどうか。育児、介護などで自宅を離れられない場合でも参加しやすい等のメリットがある。	多くの方に会議の参加や相談をしていただけるよう、会議の運営や相談内容に合わせ、Web会議の活用を検討します。
4	【資料2:P11:自殺者数】 令和3年に20歳未満、20歳代の自殺者が増加しており、原因・動機として経済生活が多くなっている。コロナ禍の影響や経済活動の低迷による進学困難などが影響していないのか。若者の自殺を防止するため、さらに原因の精査と対策が必要かと思われる。	いのち支える自殺対策推進センターの地域自殺実態プロファイルや、大阪府市町村別自殺の内訳等を参考に、若年者対策を強化してまいります。
5	コロナの影響で様々な活動の中止が余儀なくされている中、社会生活の在り方も大きく変化していることから、これまでの活動の見直しを行い、新たな展開方法を検討する必要もある。	新型コロナウイルス感染症を想定した『新しい生活様式』を踏まえ、健康づくりやヘルスリテラシーの向上等を目標とし、各施策の取組を推進してまいります。
6	【資料1:P2:2(1):「毎年度の業務実績で確認できる指標と、健康実態を把握できる項目を使用して総合的な評価を行い…」とあるが、具体的にどの指標、どの項目を評価に用いて、どのように活用しているのかを教えてください。	国・府の計画や市総合保健福祉計画の基本目標に沿って施策の指標・項目を定めており、その内容は令和3年度健康医療推進分科会「資料2」のとおりです。各施策の進行状況等は分科会で報告を行い、いただいた意見・提案を反映させながら、市総合計画実施計画や行政評価において「PDCAサイクル」に基づく進行管理を行います。
7	【資料2:P7】 令和3年度の食育ネットワーク通信の発行部数が少ない理由について	幅広い周知については市ホームページに掲載し、資料は地域イベントなどで配布しているため発行部数が少なくなっております。また、合わせて、市Facebookも随時活用して取り組んでいるところです。
8	【資料2:P7】 食育推進ネットワークの令和元年度の団体数は27ではなく29ではないのか。	ご指摘いただいた通り、29団体です。修正いたします。
9	【資料2:P13:評価と課題】 「健診等の受診率について、引き続き増加を目指した取組を検討中」と記載されているが、具体的な取組予定の内容があれば教えてください	AIを活用した受診勧奨の効果が期待できる層への重点的な勧奨に取り組んでいるところであり、今後につきましては、地区保健福祉センターと連携した受診勧奨の実施や、健診が受けやすい環境の整備等について検討しております。

10	<p>【資料2:P16:評価と課題】 「地域ごとの健康課題を把握し」とあるが、どのような方法、手段で課題を把握されるのか。具体策があれば教えてほしい。</p>	<p>地区保健福祉センターでの事業などを通じ、地域住民等のニーズ把握に努めるとともに、今後、より効果的な施策を検討してまいります。</p>
11	<p>【資料2:P6:健康相談の実施】 離乳食相談のEメール相談件数が伸びない件について、現代の母親世代を標的とするにはSNSなどで写真等の情報が掲載できれば良いのではないか。例えば離乳食の形状やスプーンの大きさなど、文章で表現しにくいものを写真で掲載すれば、具体的に知ることができる。</p>	<p>市Facebookでの情報発信による啓発に努めてまいります。</p>
12	<p>【資料2:P10:自殺予防】 新型コロナウイルス感染症による生活の変化への不安や、心身のストレスのためにこころの健康はますます重要になる。精神保健福祉士による「心の健康相談」の充実は力を入れていただきたい。最近の事件で気になる「拡大自殺」など自殺の形も変化しているため、自殺予防の取り組みも見直しが必要ではないか。</p>	<p>令和3年度より精神保健福祉士を雇用し自殺対策を強化しております。取組内容の見直しにつきましては、自殺対策推進会議等で関係機関と連携し進めてまいります。</p>
13	<p>【資料2:P14:歯と口の健康】 8020運動が歯の健康推進で取り上げられることが多く、市民にも8020運動という言葉が浸透していると思っていたのだが、茨木市ではあくまで「60歳で24本以上の歯を有する者」に重点がおかれているということか。</p>	<p>市の歯科健康診査のデータを用いているため、国の指標を参考に、「60歳で24本以上の歯を有する者」を指標として用いています。</p>